

韓国の日本語教科書における接続助詞の使用実態

金廷珉

キーワード： 接続助詞、従属節、中断節、日本語教科書、韓国

要旨

本研究は日本語の接続助詞が韓国の日本語教育分野においてどのように教えられているか、その使用実態を調べたものである。具体的には韓国で製作・市販されている日本語教科書（初級～中級）を分析対象に、接続助詞が従属節内に出現した場合と、主節の随伴なしに接続助詞のみで終了する中断節の場合に分けて、それぞれの導入順序と出現頻度を調査した。その結果、従属節「が」の出現頻度が最も高く、導入順序も最も早いこと、中断節の場合は「から」の出現頻度が最も高く、最も早い段階で教えられていることが分かった。

1. はじめに

近年、日本語教育分野では日本語学に依存しない学習者のための日本語教育文法が提唱され（野田 2005）、日本語教材においても実際のコミュニケーションで多用されやすい形式や用法の導入が必要であると指摘されている（小林 2005）。このような流れを反映して、ある言語形式や表現を日本語母語話者がどのように使用しているか、コーパスデータの使用実態調査の結果と日本語教育の現場での現れ方を比較する研究も行われつつある（田 2013、中俣 2014、三枝 2015、阪上 2015）。

このような研究背景を踏まえて、本研究では「けど」「から」「し」といった、いわゆる日本語の接続助詞を研究題材として、韓国の日本語教育分野において、接続助詞がどのように教えられているのか、その現れ方と使用実態調査を試みる。

接続助詞は（1）のように従属節に生起し、主節が伴われる例もあれば、（2）のような接続助詞単独の使用例も見られるが、実際の日本語母語話者の使用実態（特に話しことば）を観察すると、（2）のほうが多用されている。また、談話上の機能や用法においても違いが見られるため、日本語教育分野において両者を「別立てて説明する必要」（白川 2009:196）があるという提言がなされている。

（1）今晚どこへ行きますか。

宿題がたくさんありますから、どこも行きません。（『新日本語の基礎 I』9 課）

(2) 小川：課長、最近、一戸建てを買われたそうですね。

伊藤：うん。今までよりだいぶ遠くなったけど…。

(『新日本語の初級』第19課、会話1)¹

そこで本研究では、韓国の日本語教育分野における両者の導入順序や出現回数に注目して、接続助詞がどのように教えられているのかを調べることを目的とする。

本稿の構成は次のとおりである。2節では先行研究を簡単に紹介し、3節では調査方法を説明する。4節では調査結果について従属節、中断節の順に提示し、どのような特徴が見られるのか考察する。最後に5節ではまとめと今後の課題を述べる。

2. 先行研究

接続助詞の意味、用法に関する研究は多くあるが、日本語教育における接続助詞の使用実態を調査した研究は少ない。また、そのほとんどが「が」「けど」「し」などの一部の形式の調査に留まっている(田 2013、阪上 2015、前田 2016 など)。例えば、前田(2016)は日本のドラマのシナリオと初級日本語教科書において、「が」と「けど」がどのように使用されているのかを調査し、両者の結果を比較した。その結果、日本人の話し言葉において頻度の高い「けど」よりも「が」が日本語教材において先に導入されているため、実際の日本語母語話者の使用実態に即していないとし、「が」よりも「けど」を先に導入することを提案している。

田(2013)は「名大会話コーパス」を用いて「けど」の使用実態を調べた。その結果、接続助詞の「けど」よりも言いさし(＝本研究で言う中断節)の「けど」の使用頻度が高いことを踏まえて、現在の日本語教育において「けど」の扱い方を見直す必要があると主張している。

一方で韓国の日本語教育の現状について考察した金(2016)は、韓国の日本語教科書9冊を対象に、中断節の種類とその出現頻度を調べた。その結果、中断節「から」の導入回数が最も多く見られ、日本語母語話者の使用頻度が多い「けど」に関しては、今後再検討の余地があることを指摘した。しかし、金(2016)が分析対象とした教科書が限られていたことや、諸形式の使用頻度に焦点を置いたため、各教科書における諸形式の導入順序の詳細分析までには至っていない。そこで本研究では、中断節だけでなく、主節を伴う従属節に生じた場合も分析対象に含めて、両者が韓国の日本語教育現場においてどのように教えられているのか、その現れ方の現状を把握することを目的とする。

¹ (1)は白川(2009:37)より、(2)は同:191より引用。ただし、(2)の原文にはふりがながついている。

3. 調査方法

韓国の日本語教科書（初級～中級）に現れる接続助詞の導入順序と頻度を調べるために、表 1 に示す 16 冊の教科書を分析対象とした。

表 1 分析対象の教科書²

略名	教科書名	構成	出版社	出版年度
A-1	New 다이나믹 일본어 Step1	全 16 課	다락원	2012
A-2	New 다이나믹 일본어 Step2	全 16 課	다락원	2012
A-3	New 다이나믹 일본어 Step3	全 16 課	다락원	2012
A-5	New 다이나믹 일본어 Step5	全 16 課	다락원	2012
B-1	open 일본어 1	全 10 課	일본어뱅크	2011
B-2	open 일본어 2	全 12 課	일본어뱅크	2011
C-1	스트라익 일본어 BASIC-1	全 18 課	시사일본어사	2011
C-2	스트라익 일본어 BASIC-2	全 18 課	시사일본어사	2011
D-1	뉴라인 일본어 1	全 15 課	다락원	2010
D-2	뉴라인 일본어 2	全 15 課	다락원	2010
E-1	단계별로 쉽게 익히는 3STEP 日本語 1	全 10 課	다락원	2010
E-2	단계별로 쉽게 익히는 3STEP 日本語 2	全 10 課	다락원	2009
E-3	단계별로 쉽게 익히는 3STEP 日本語 3	全 10 課	다락원	2009
F	이지 스타트 일본어 입문 1	全 15 課	사람 in	2010
G	타노시이 일본어 상	全 15 課	넥서스	2010
H	CAMPUS 일본어 상	全 12 課	넥서스	2010

これらを選んだ背景には、大手語学教材出版社の教科書である点、韓国の大学などの教育機関において日本語教材として採択されている点、入手しやすさなどがある。またこれ以降、各教科書に言及する際は、便宜上、表 1 の略名を用いることにする。

次に、分析対象とした接続助詞は、南（1993）、白川（2009）などを参照し、「が」「けど」「ので」「から」「し」「のに」「ながら」「たら」「なら」「ば」「と」の 11 形式である。「が」「けど」は逆接、対比などを表す点では類似するが、書き言葉では「が」、

² 「New 다이나믹 일본어 Step4」は他の教科書と構成が異なっていたため、今回は分析対象から外した。また、教材 F～H のそれぞれの上級教材の入手が今回の調査までに間に合わなかったため、今後継続調査を行うことにしたい。

話し言葉では「けど」の使用頻度が高いという文体差があるため（田 2013、三枝 2015、前田 2016 など）、両者を分けて数えた。なお、「て」形はその意味と機能が広範囲に渡ること（中俣 2017）と、「て」を接続助詞として扱うかどうかについて研究者によって議論が分かれる（高橋 1993、白川 2009）ため、今回は対象外とした。また、上記の接続助詞が従属節内で使われた場合と、接続助詞のみで終了している中断節の場合に分けて、各教科書の本文（会話文）に現れる諸形式の導入課と出現頻度を調べた³。

4. 調査結果

ここでは3節での調査方法を踏まえて行った調査結果を提示する。まず、従属節に生じた接続助詞が、教材の導入課内に現れた回数を調べた結果を表2に示す⁴。

表2 従属節の出現回数

形式	が	けど	ので	から	し	たら	なら	ば	と	ながら	のに
合計	56	30	43	40	24	25	8	21	21	6	8

表2を見ると、接続助詞の頻度数は「が」（56回）＞「ので」（43回）＞「から」（40回）＞「けど」（30回）＞「たら」（25回）＞「し」（24回）＞「ば」＝「と」（それぞれ21回）＞「なら」＝「のに」（それぞれ8回）＞「ながら」（6回）の順になっている。出現頻度が最も高い形式は「が」で、最も低いのは「ながら」である。

次に、接続助詞が各教科書においてどのような順番で現れているのかをまとめた結果が表3である。表3における数字は初出課を基準にした導入順番を表し、同課に複数の接続助詞が取り上げられている場合は本文中の出現が早い順に数えた。

表3を見ると、どの接続助詞を取り扱っているか、またその導入順序は教科書によってかなりばらつきがあることが分かる。そのため一概には言えないが、H以外のすべての教科書において「が」が最も早く導入され、「ながら」は出現回数が低いものの（表2）、「ながら」を取り扱っている教科書（A、B、D、E、G）では比較的早い段階で導入される傾向が観察される。

また、中断節の導入順序と頻度を調べた結果を表4に示す。「なら」「ば」「ながら」の例は見られず、合計8形式が使用されており、「と」は「～しないと」という形式に限られていた。

³ 文法項目や文型の解説に用いられた接続助詞の例文は出現頻度としてカウントしていない。

⁴ 各教材における接続助詞の導入課と出現回数の詳細は稿末に提示する。

表 3 従属節における接続助詞の導入順序

教材	が	けど	ので	から	し	たら	なら	ば	と	ながら	のに
A	1	9	7	2	5	6	11	10	4	3	8
B	1	—	3	—	—	6	—	5	4	2	—
C	1	4	6	2	8	5	10	3	9	—	7
D	1	4	3	9	7	8	—	6	10	2	5
E	1	—	6	2	5	8	—	4	7	3	9
F	1	4	2	—	3	—	—	—	—	—	—
G	1	4	5	—	3	—	—	—	—	2	6
H	2	3	1	5	4	—	—	—	6	—	—

表 4 中断節の出現回数

形式	が	けど	ので	から	し	たら	のに	と
合計	25	22	6	49	15	1	8	3

表 4 に示されているとおり、中断節の生起頻度は、「から」(49 回) > 「が」(25 回) > 「けど」(22 回) > 「し」(15 回) > 「のに」(8 回) > 「ので」(6 回) > 「と」(3 回) > 「たら」(1 回) の順に現れた。全体的に表 2 の従属節の結果に比べて出現回数が少ないことが分かる。次に、教材における中断節の導入順番の調査結果を表 5 に示す。

表 5 中断節の導入順序

教材	が	けど	ので	から	し	たら	のに	と
A	2	5	6	1	3	8	4	7
B	2	—	3	1	—	—	—	—
C	3	5	—	1	2	—	4	—
D	3	2	4	1	—	—	—	—
E	2	3	—	1	—	—	—	—
F	—	2	—	1	—	—	—	—
G	1	3	—	2	—	—	—	—
H	—	—	—	2	—	—	1	—

表 5 を見ると、G と H を除いた他の教科書では、「から」中断節が最も早い段階で導入されており、金(2016)と同様の傾向が見られた。また、2 節で触れた先行研究(田 2013、前田 2016 など)の指摘を参照して「けど」と「が」に注目してみると、両形式は「から」の後に導入される傾向にあるが、両者を扱っている教科書 A、C、D、

E、Gのうち、D以外は「けど」よりも「が」を先に導入している。

これらの点について表4と照らし合わせてみると、「が」(25回)と「けど」(22回)の出現頻度はほぼ等価であるのに対して、「から」の出現頻度は際立っている(49回)。しかし、日本語母語話者の話し言葉には「から」よりも「けど」が多用される(田2013)という現状を踏まえると、「から」の導入課と取り上げる回数について改善が必要であると考ええる。

5. まとめ

本研究ではいわゆる日本語の接続助詞が、韓国の日本語教育分野においてどのように導入されているのかについて、日本語教科書(初級～中級)を分析対象に、その現れ方を調べた。今回の調査を通して分かった結果を以下のようにまとめる。

(i) 導入される接続助詞の種類

従属節の場合は11種類、中断節の場合は8種類の形式が導入されている。

(ii) 出現頻度

全体的に中断節より従属節に生起する接続助詞の出現頻度のほうが高い。

出現頻度の最も高い形式は、従属節「が」と中断節「から」である。

(iii) 導入順序

教科書によって導入順番に関してはばらつきが見られたが、最も早い段階で導入される形式は、従属節の場合は「が」、中断節の場合は「から」である。

今回は初級から中級の教科書を中心にみてきたが、今後は会話に特化した教科書に対象を広げて、導入順序や出現回数のみならず、接続助詞の用法と共起形式なども分析する必要がある。また、個々の接続助詞について日本語母語話者の使用実態に関する大規模調査の結果(宮内2012、中俣2017など)と綿密な比較を行い、その研究成果を韓国の日本語教育の現場に生かしていきたい。

【謝辞】

本研究は日本学術振興会(JSPS)科学研究費補助金(若手研究(B)課題番号:JP16K16830)の助成を受けて行われたものです。記して感謝を申し上げたい。

参考文献

- 金廷珉(2016)「日本語と韓国語における中断節研究の現状と課題」『日本語文学』第68輯, 韓国日本語文学会, pp. 25-42.
- 小林ミナ(2005)「コミュニケーションに役立つ日本語教育文法」『コミュニケーションのため

- の日本語教育文法』, くろしお出版, pp.23-41.
- 三枝礼子 (2015) 『語形から意味へ機能中心主義へのアンチテーゼ』 くろしお出版, pp. 147-174.
- 阪上彩子 (2015) 「話しことばにおける接続助詞「し」の使用実態」『日本語・日本文化』 42, 大阪大学, pp.123-135.
- 白川博之 (2009) 『「言いさし」の研究』 くろしお出版.
- 高橋太郎 (1993) 「省略によってできた述語形式」『日本語学』 第 12 巻 1 号, 明治書院, pp.18-25.
- 田 昊 (2013) 「「言いさし」の「けど」類の使用実態に関する一考察」『日本語教育』 156, 日本語教育学会, pp.45-51.
- 中俣尚己 (2014) 『日本語教育のための文法コロケーションハンドブック』 くろしお出版.
- (2017) 「接続助詞の前節語に見られる品詞の偏り-コーパスから見える南モデル-」
『日本語の研究』 第 13 巻 4 号, 日本語学会, pp.1-17.
- 野田尚史 (2005) 「コミュニケーションのための日本語教育文法的设计図」『コミュニケーションのための日本語教育文法』, くろしお出版, pp.1-20.
- 前田直子 (2016) 「「けど」と「が」-日本語教育のための使用実態調査とその分析-」2016 年度日本語教育国際研究大会口頭発表レジュメ.
- 南不二男 (1993) 『現代日本語文法の輪郭』 大修館書店.
- 宮内佐夜香 (2012) 「接続助詞とジャンル別文体的特徴の関連について-『現代日本語書きことば均衡コーパス』を資料として-」『国立国語研究所論集』 3, 国立国語研究所, pp.39-52.

【付録1】 従属節における接続助詞の導入課と出現回数

教材	出現課	が	けど	ので	から	し	たら	なら	ば	と	ながら	のに
A-1	7課	1										
A-1	8課				1							
A-1	15課										1	
A-1	16課				2							
A-2	2課									1		
A-2	3課					1	3					
A-2	4課	1			1							
A-2	5課				1		1					
A-2	6課	1		2								1
A-2	7課		1		2		1					
A-2	8課			1	1							
A-2	9課	1										
A-2	10課	1			2		1	1	2	1		
A-2	11課	1		1			1					
A-2	12課			1								
A-2	13課											1
A-2	14課			1								
A-2	15課			1								
A-2	16課			1								
A-3	6課									1		
A-3	3課								1			
A-3	6課									1		
A-3	7課			1								
A-3	8課						1	1				
A-3	10課	1										
A-3	11課											1
A-3	12課		1									
A-3	13課				1		2					
A-3	16課	1										
A-5	1 課			1								
A-5	2課				1		2					
A-5	3課		1			1	1			1		
A-5	5課	1	1	1	1							
A-5	6課	1	1							1		
A-5	7課		2	1			1					
A-5	8課	1	1	1	1	1				2		
A-5	9課			1	1						1	
A-5	10課		3									
A-5	11課			2	1				2	1		
A-5	12課	1										
A-5	13課	1		1						1		
A-5	14課	1			1					1		
A-5	15課	1						2	1			
A-5	16課		1	1				1		1		1
B-1	4課	2										
B-1	5課	1										
B-1	10課										1	
B-2	1課			2								
B-2	2課			2								
B-2	5課			1								
B-2	6課	1		1								
B-2	8課	1										
B-2	9課						1		1	1		
B-2	12課	1										
C-1	7課	1										
C-1	8課	1										
C-1	14課				2							
C-1	16課	1							1			
C-1	17課	1										
C-1	18課		2		3							
C-2	22課						2					
C-2	23課	1		1								1
C-2	24課					1						
C-2	25課					2						

韓国の日本語教科書における接続助詞の使用実態
金 廷 珉

教材	出現課	が	けど	ので	から	し	たら	なら	ば	と	ながら	のに
C-2	26課			1		2						
C-2	27課			1								
C-2	28課				1	2	1			1		
C-2	29課	1							2			
C-2	30課		1		1	1		2				
C-2	31課				1	2						
C-2	32課					1						
C-2	33課					1						
C-2	34課	1					1					
C-2	35課							1	2			
C-2	36課	1		1								
D-1	7課	2										
D-1	10課										1	
D-1	12課	2										
D-1	13課	2		1								
D-1	14課	1	1									
D-1	15課											1
D-2	1課								1			
D-2	3課	1		1		1						
D-2	4課		1			1						
D-2	5課	1					1					
D-2	6課			1			1		1			
D-2	7課				1	2	2		1			
D-2	6課		1									
D-2	8課		3									
D-2	9課		1									
D-2	10課		1		1							
D-2	11課			1	1				1			
D-2	12課		1		1				1			
D-2	13課						1					
D-2	14課		1	1						1		
D-2	15課	2										
E-1	9課	1										
E-1	10課	1			1							
E-2	2課	1			1							
E-2	3課										1	
E-2	5課	1										
E-2	8課				1				1			
E-2	9課					1			1			
E-3	1課					1						
E-3	2課	1		2								
E-3	3課				2					1		
E-3	4課	1		2					1	1		
E-3	6課									2		
E-3	7課				1		1					
E-3	8課								1			1
E-3	9課				3					1		
F	5課	1										
F	8課			1								
F	10課	1		2		1						
F	11課		1		1							
F	15課	1	1									
G	9課	1										
G	11課	2									1	
G	12課	1				1						
G	13課	1										
G	15課		1	1								1
H	5課			1								
H	7課	1	2	1		1						
H	8課				1							
H	9課	1								1		
合計		56	30	43	40	24	25	8	21	21	6	8

【付録2】 中断節の導入課と出現回数

教材	出現課	が	けど	ので	から	し	たら	のに	と
A-1	7課				1				
A-1	15課				2				
A-2	3課	1							
A-2	8課	1							
A-2	10課	1							
A-2	13課	1							
A-2	16課	2				1			
A-3	3課				1				
A-3	8課	1							
A-3	9課								
A-3	11課				1				
A-3	14課	1							
A-3	15課	1						1	
A-5	1課	1	1			1			
A-5	2課		1	1		2			1
A-5	3課	1			1				
A-5	4課		1		1				1
A-5	5課			1		1			
A-5	6課								
A-5	7課	1	1						
A-5	8課		1		1				
A-5	9課		1		1	2	1		
A-5	10課		1			1			
A-5	11課	1	1	1	1				1
A-5	12課		1		1	1			
A-5	13課	1	1		1				
A-5	14課		1			1			
A-5	15課		2		2	1			
A-5	16課		1			2			
B-2	5課				1				
B-2	7課	1		1					
B-2	8課	1							
B-2	10課				1				
B-2	11課								
C-1	12課				1				
C-1	15課				1				
C-1	16課				2				
C-2	19課				1				
C-2	23課					1			
C-2	24課	1							
C-2	26課	1				1			
C-2	29課							1	
C-2	30課	1			3				
C-2	32課		1						
C-2	33課				2			1	
C-2	34課	1							
C-2	35課				1				
C-2	36課	1							
D-1	8課				1				
D-1	10課				2				
D-1	14課	1	1						
D-1	15課				2				
D-2	5課				1				
D-2	6課				1				
D-2	7課		1						
D-2	8課		1						
D-2	9課		1		1				
D-2	10課								
D-2	11課								
D-2	12課	1			1				
D-2	13課			1					
D-2	14課			1					
E-2	2課				1				
E-3	3課				1				
E-3	1課								
E-3	2課								
E-3	5課				1				
E-3	6課	1			1				
E-3	7課		1		1				
F	13課		1		1				
F	15課				1				
G	1課	1							
G	6課				1				
G	7課		1						
G	10課				1				
G	13課								
G	15課				1				
H	6課							1	
H	7課							1	
H	8課				1				
H	9課							1	
H	10課				1				
H	11課				1			1	
H	12課							1	
合計		25	22	6	49	15	1	8	3